

平成26年度 学校自己評価システムシート (埼玉平成中学校)

目指す学校像	創設者山口茂先生の唱えた「為すことによって学ぶ」の建学の精神のもと、「創造・自律・親切」を校訓として、心豊かで国際感覚を身につけた人材、また多くの体験を通して、真の学力とたくましさをも身につけた生徒を育成することを目標とし、個々の能力を最大限に伸ばす、中高一貫ならではのゆとりある教育機関を目指す。
--------	---

重点目標	1 キャリア教育を通して、将来「よりよく生きる」ための基礎を育む指導 2 大学受験に向けた合格力を身につける学習指導 3 国際社会で活躍するための生きた英語教育の充実 4 本校の伝統にそった生徒指導の充実
------	---

達成度	
A	ほぼ達成 (8割以上)
B	概ね達成 (6割以上)
C	変化の兆し (4割以上)
D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	3名
事務局(教職員)	5名

学校自己評価							
年度目標			年度評価(3月14日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	昨年より始めましたキャリア教育の充実のため、更なる深化を推し進めたい。ステージ学年ごとの行事や新たな取り組みをそれぞれの項目ごとに係りや責任者を決め実施する。今までの取り組みと新たな取り組みをうまく取捨選択し、無理のない年間計画を来年度に構築するため、課題や問題点の洗い出しを行いたい。	キャリア教育を通して、将来「よりよく生きる」ための基礎を育む指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージ、学年毎の目標に沿って生徒に身につけさせたい力を育成する。 ・新たな体験学習等に全教員が積極的に取り組み、計画的・系統的なキャリア教育をスタートさせる。 ・職業体験、講演会等を行い、勤労観、職業観の形成・確立の一助とする。 ・キャリア教育を通して、学ぶことの意義を再認識させ学習意欲を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標は立てられたか。 ・体験学習を計画的に実施できたか。 ・職業体験は実施できたか。 ・講演会は実施できたか。 ・学習意欲は向上したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな取り組みを交えた計画を策定した。 ・体験学習を計画通り実施した。 ・ボランティア体験を特別養護老人ホームで実施 ・野村総研でコンビニ経営職業体験(中3) ・関越物産工場見学(中3) ・弁護士先生による講演会 ・女子栄養大先生による食育講演会 ・JICAで海外青年協力隊員経験談講演を聞く(中2) ・外務省にて省員より講話をいただく。(中3) ・業者テストの結果各学年とも偏差値の上昇がみられた。 	A A B A A	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育における職場体験は野村総研でのコンビニ経営職場体験で全員同じプログラムであるがグループ別・異職種へと進化させたい。また、食育教育においても農業体験をさせたい。体験的な教育を増やし、本校の建学精神「為すことにより学ぶ」教育を前進させたい。
2	すぐ近くにある目標への現実的に乗り越える力を育む。この課題は昨年に引き続くものであるが常に自覚せねばならない課題である。今年度も昨年以上に日々努力を傾注し、大学入試合格数値目標を達成したい。	大学受験に合格できる力をつける	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が平成25年度、学力向上委員会の「学力向上のための改革案」に沿って大学実績を向上させるべく、共通意識を持って取り組む。 ・大学入試合格実績の数値目標 国公立3名、難関私大15名以上、中堅私大15名以上 ・自習室をますます活用させ、いつでも生徒の質問に対応できる態勢を続ける。 ・能率手帳等を利用し、家庭学習を定着させ、自学自習の習慣を確立させる。 ・定期的な個別面談(年間5回)を実施し、細かな目標設定を示す。 ・夏期補講、センター対策合宿をはじめ、長期休業中にもさらに学力を向上させるべく様々な対策を実行する。 ・週末課題・確認テストを第2ステージまで励行し、学習内容を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学実績数値目標を達成できたか。 ・自習室の利用状況は良かったか。 ・家庭学習は定着したか。 ・個別面談は計画通り実施できたか。 ・学力向上対策は実施されたか。 ・成績不振者は減ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立1、医1、歯4、薬2、難関私大3、中堅10と医歯薬系の増加が目立った。 ・自習室の利用が中学生に定着し、常に2名の英語・数学の教員が質問に対応し、学習活動に貢献した。 ・能率手帳の活用で担任が学習時間の把握が毎日できるようになり指導の徹底が行われた。 ・計画通り年間5回の個人面談が行われた。 ・学力向上委員会による業者テスト各学期定期試験の分析が実施され、教員全員に情報の共有が図られた。 ・成績不振者にはフォローアップ講座が設けられ常に学習の定着が図られた。よって、成績不振生徒の減少がみられた。 	B A B A A B	<ul style="list-style-type: none"> ・能率手帳による生徒把握。学級通信、学年通信、ステージ通信等で家庭への連絡はこまめに行っているが、更に電話連絡等により週一回のコンタクトを図りたい。保護者を巻き込み学習の定着や進路指導の一役を担っていただく指導を実施したい。 ・次年度はS選抜一期生の卒業年度に当たり、6ヵ年の教育集大成となるべく全教職員が進学実績に向け一丸となって指導に当たりたい。 ・6年後の大学入試センター試験改革に向けた対策を始めたい。
3	本校は創立当初より、国際化教育を実施している。平成26年度入学試験に県内初の英語入試を実施するなど、英語を重視した教育を進めている。特に本校の重点教科として挙げ、国際社会で活躍できる人材を育みたい。	国際社会で活躍するための生きた英語教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部での国内英語合宿、オーストラリア語学研修旅行、高等部でのアメリカ修学旅行の実施。また、中・高希望者の海外ホームステイを引き続き実施する。 ・ネイティブスピーカーの教員を中心に、校内で自然に英会話ができる雰囲気を作る。 ・S選抜クラスでは、第2ステージまで毎朝、英語講座に継続的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内英語合宿、オーストラリア研修旅行成果 ・ホームステイ成果 ・国内ミニ留学成果 ・英会話サロン成果 ・中等部S選抜基礎英語成果 	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県にあるランゲッヅヴィレッジに国内英語合宿を変更して3年目となるが、全員が楽しく学習できる人気の宿泊学習となった。 ・専任ネイティブスピーカーによる放課後英会話サロンを中等部1学年から高等部2学年の全生徒が参加。 ・第2ステージ最終クラスは、クラスの半数以上英検2級合格した。 	A A A B A	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の充実のため、行事や実施プロジェクトは定着した感がある。各学年に応じた細かな指導が今後、重要と思われる。 ・放課後英会話サロンによる生徒の会話力の向上のため実施内容を更に精査する。
4	穏やかな生徒が多く問題行動も少ない。卒業までにたくましく生きることのできる人間へと成長させたい。まずは基本的な生活習慣の定着を徹底し、部活動で心身ともに鍛えたい。	本校の伝統にそった生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・善悪の判断、行動のけじめをつけさせ、本校生徒としての誇りを持った学校生活を送らせる。 ・教職員、生徒による登校指導、校門指導の励行 ・制服をきちんと着こなし、品位ある態度を醸成する。 ・文武両道を目指し、学習と部活動との両立を図る。 ・問題行動を未然に防ぐため、生徒の行動をさらにきめ細かく把握するとともに保護者と密に連絡を取り合い、学校との連携を図る。 ・携帯、PCでのメールやWeb上での生徒のトラブルを防ぎ、また、使用の実態を把握し、保護者との連携の中でルール作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導、校門指導はできたか。 ・制服は、きちんと着こなししているか。 ・部活の参加率は良いか。 ・保護者と連携はできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、校長・管理職による登校指導を実施。制服の着こなしも含め早朝より挨拶指導。 ・部活の参加率は、ほぼ100%と高く、朝練習もバレーボール部、バスケットボール部は毎朝実施し定着した。 ・学級通信、学年通信、進路便りをはじめとした学校からの発信と保護者への連絡を密に実施した。 	A A A A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるに従い、基本的な生活態度はよくなっていると思われる。小さな事でもしっかり身につけさせる不断の努力が今後も必要と思われる。 ・伝統のあいさつ運動をさらに徹底させる。

学校関係者評価	
実施日 平成27年3月14日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育における職業体験は、将来の目標を持たせるための良い機会と考えられる。卒業生や保護者を有効に利用し、それぞれの職場には様々な職種があると思うので、希望者を募り一日体験をさせてはどうか。そのことにより、どの大学に進学したら良いか、学力はどれくらい身につけなくてはならないかが見えてくると思われる。 ・個別的、実戦的な指導により自分一人で解答できる力を養う教育を取り入れたらどうか。 ・いままで、学習指導はいろいろと保護者の意見を聞いていただき取り組んでいた。これからは、項目を増やすのではなくより深く、応用力につながる指導をしていただければ良いのではないか。 ・手厚い指導をしていただいているが浪人生の進路結果を見ると、少し実戦向きの指導が入ると大学合格実績もさらに伸びると思われる。 ・英語のネイティブスピーカーによる、オープンカレッジのような講座を開いてはどうか。また、学校に足を運んでもらうために卒業生や保護者にも実施してはどうか。 ・不断の努力により成果が上がっていると見える。更なる努力の継続が大切だと思われる。 	